

# りゅうがく館だより

令和8年6月



## 職場体験

5月12日～3日間、龍南中学校と赤徳中学校の生徒さんが職場体験に来てくれました。巡回図書への同行やおすすめ本のPOP作成などさまざまな業務を体験してくれました。特設コーナーでは、「中学生おすすめの本」というコーナーを、3人で本を選び作り上げてくれました。慣れない作業のなか、熱心に取り組む姿に感動しました。今回の経験が、今後の進路学習に役立てば嬉しいです。



## 「旅の指さし会話帳」

龍郷町赤尾木出身の高久直子さん（旧姓：三井）より「旅の指さし会話帳」を、寄贈いただきました。高久さんは、青年海外協力隊でモルディブ共和国にて体育・音楽を指導。東南アジアの東ティモールには、2021～2024年まで滞在しており、現在は出産と育児のため帰省中ですが、9月には再度東ティモールに赴任予定です。2025年に「旅の指さし会話帳 東ティモール テトゥン語」を出版されました。外国の方と触れ合う機会も多くなってきている世の中、子供たちにも興味を持つきっかけになるかと思います。ぜひお手にとってご覧ください。



## お知らせ

図書室の本は町民の大切な財産です。大切に扱い、返却期限を守りましょう。もし汚してしまったり、失くしてしまった場合には、お早めにご連絡ください。

## 《一般書》

- 『ほんとうのことを書く練習』（土門 蘭/ダイヤモンド社）
- 『約束』（泉二 弘明/中日新聞社）
- 『骨を掘る男』（奥間 勝也/大和書房）
- 『任せ方がわかりません』（けーりん/すばる舎）
- 『読書思考トレーニング』（中崎 倫子/筑摩書房）
- 『もしもキッチンに立てたなら』（はらだ まさこ/徳間書店）
- 『圧倒的に旨い野菜のごちそう』（ジョージ 吉田/主婦の友社）
- 『存在のすべてを』（塩田 武士/朝日新聞出版）
- 『「説明」がうまい人がいつも頭においていること』（犬塚 壮志/サンマーク出版）
- 『教養としての三菱三井住友』（山川 清弘/飛鳥新社）
- 『世界100カ国の旅で出会った人たちが教えてくれた人生で大切なこと』（旅人KAD/ディスカヴァー・トゥエンティワン）
- 『空、はてしない青 上・下』（メリッサ ダ・コスタ/講談社）
- 『奄美の生物多様性と人々の暮らし』（鈴木 英治/南方新社）

他

## 《児童書》

- 『選挙のしくみ』（林 大介/ポプラ社）
- 『くふうはっけん！すがたをかえる食べ物のずかん』（川端 輝江/ポプラ社）
- 『物語のある民族衣装』（淵/エクスナレッジ）
- 『びっくり発見！こども農園』（農文協/農山漁村文化協会）
- 『海に道ができた！』（仁木 将人/世界文化社）
- 『10かいだてのゆうしゃのおしろ』（のはな はるか/PHP 研究所）
- 『やさいのがっこう なすびせんせいのおはなし』（なかや みわ/白泉社）
- 『悪夢図書館 きみの隣の奇妙な世界』（福井 蓮/汐文社）
- 『また、かえりみちがわからなくなった。』（ありの くろき/つむぐ舎）
- 『そうっと そうっと』（田中 友佳子/徳間書店）
- 『死って、なんだろう？』（エレン ダシー/創元社）
- 『石巻こども記者魂！』（なかの かおり/静山社）
- 『まねてみよう』（青物横丁/講談社）

他

## 今月のおすすめ本



『法律のしごとはおもしろい！』（石田 京子/岩波書店）  
「法律家のしごとのおもしろさ」を、実際に法曹界で働く弁護士、裁判官、検察官ら計21人へのインタビューから7つのキーワードにそって具体的に紹介しています。法律家への道のりを試験なども含め詳しく解説しています。

『ぼくをグレーってよんで』（アンドリュー・ラーセン/光村教育図書）  
ジェンダーで迷う子どもが描かれている物語です。子どもの変化や戸惑いを家族が理解し受け止め、変わることはない愛の確かさ、優しさを伝えています。性別や、多様性について考えるきっかけになる絵本です。

